

これは車椅子を使っている学生の事例だが、ほかに耳の聞こえない学生もいるので、その学生がどのような不便を感じているか、意見を聞き改善を図る必要がある。

将来の改善・改革に向けた方策

今後は、障害をかかえたすべての学生が、できるだけ快適な学習・生活環境のなかで学べるよう、施設・設備の点検を適切に行わなければならない。

(2) 各施設の利用時間に対する配慮の状況

現状の説明

現在、各施設について学生が利用できる時間帯は、次のとおりとなっている。

・事務局窓口対応	9 : 0 0 ~ 1 8 : 3 0	
(就職資料室は、1 1 : 3 0 ~ 1 2 : 3 0 の休憩時間中も利用可能)		
・医務室	9 : 0 0 ~ 1 8 : 0 0	
・学生会館	8 : 0 0 ~ 2 1 : 0 0	
・課外活動団体の部室	9 : 0 0 ~ 2 1 : 0 0	
・課外活動団体の教室 (貸出)	1 6 : 3 0 ~ 1 9 : 0 0	(原則として平日のみ)
・課外活動団体の体育館 (貸出)	9 : 0 0 ~ 2 0 : 0 0	
・証明書等自動発行機	9 : 0 0 ~ 1 8 : 3 0	(平日のみ)
・教育研究情報センター (図書館)	9 : 1 5 ~ 2 0 : 0 0	(平日のみ)
・コンピュータ実習室	9 : 0 0 ~ 2 1 : 0 0	(平日のみ)
・学生駐車場	8 : 0 0 ~ 2 1 : 0 0	
・食堂	9 : 0 0 ~ 1 9 : 0 0	(平日のみ)
・ブックセンター	1 0 : 3 0 ~ 1 7 : 0 0	(平日のみ)

点検・評価

長所と問題点

学生の要望にもとづいて事務局の窓口対応は、平成15年度から交替での時差勤務体制をとることによって、窓口対応を1時間延長して、18時30分までとすることができた。コンピュータ実習室についても、前年より2時間延長して21時までとした。

将来の改善・改革に向けた方策

学生の要望によって、対応時間、使用時間を延長したことは、学生にはおおむね好評であった。このように学生の要望に小まめに耳を傾けることで、さらに学生の利便性を高めていくことが肝要であると考えている。

4 組織・管理体制

(1) 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況

現状の説明

施設・設備 (電気設備、空調設備、給排水設備、消防用設備、昇降設備、ボイラー等) の維持・管理については、会計課を中心に業務を行っているが、ほとんどは、業者に委託又は保守契約をしている。構内に委託業者の施設 (エネルギー棟) があり、電気関係等は、集中管理方式によって、監視している。

防災については、法令に基づく消防訓練（総合訓練）を、年1回実施している。

点検・評価

長所と問題点

本館棟建物については、築15年が経過したため、業者に修繕箇所を診断してもらい、順次修繕をしている。また、委託業者による点検も定期的の実施している。

平成15年度に、省エネルギー対策として、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）に申請し、補助金の交付を受け、BEMS（ビル エネルギー マネージメント システム）を導入した。遠隔監視（リモコン）により、空調関係が効率良く運転され、省エネルギーに大きく貢献している。また、身体に障害を持つ学生が、円滑に利用出来る施設環境を促進するため、該当学生から意見を聴取し、バリアフリーのための改造工事を実施している。

問題点としては、消防訓練は、年1回実施しているが、大規模災害における学生等の安全を確保するための防災訓練を、学生、教職員全員参加の下に実施する必要がある。

将来の改善・改革に向けた方策

施設・設備等の維持・管理体制の確立は、建物等の修理状況によって、迅速性の問題も含め、大学全体について、計画的に実施できるような組織体制を設置することが必要である。

（2）施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステムの整備状況

現状の説明

施設・設備関係は主として、会計課が主管で、法定点検（電気設備、昇降機設備等）等を実施している。衛生管理については、庶務課が所管で（受水槽清掃、構内清掃等）管理している。法定点検、保守点検、衛生管理等については、専門的な問題も含んでいるので、外部業者に委託している。

点検・評価

長所と問題点

業務の内容からほとんどが外部委託で、効率良く実行されている。業務委託の場合は、業者も内容により、専門性、危険性を含んでいる関係上、責任を持って業務を遂行しているので、十分効率が上がっている。

将来の改善・改革に向けた方策

現状では、大きな問題も無く、一定の効果を上げているので、このままの状態を維持していきたい。